新交響楽団第123回演奏会

アマチュアオーケストラ

●ストラヴィンスキー：舞踊音楽

「ペトルーシュカ」

1911年版

●チャイコフスキー：交響曲第6番ロ短調

悲愴

追悼演奏

芥川也寸志

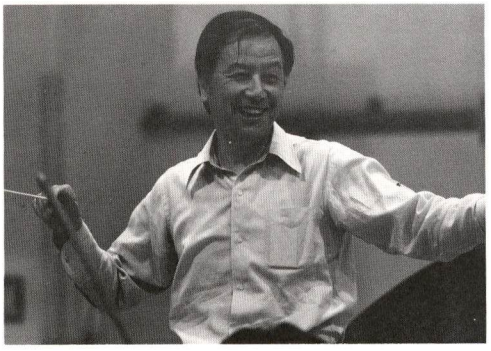
交響管絃楽のための音楽

より第2楽章 アレグロ

指揮・本名徹二

1989 4.1(土)

7:00pm 東京文化会館



私はいつも、アマチュアを『素晴らしきもの』の代名詞にしたい位に思っている。ただひたすらに愛することの出来る人たち、それが素晴しくないはずがない。私がいつも、新交響楽団の肩書に、小さくアマチュア・オーケストラといれるように頼んでいるのは、それを忘れないようにするために、そして、大勢の方々にそれを分かって頂きたいためにである。

私が新交響楽団とともに、30年を過ごすことが出来たのは、私の人生においてかけがえもなく、素晴しいことの一つであった。

これからも新交響楽団は、今と同じように美しく、愛に満ちあふれた素晴しい存在であってほしい。

新交響楽団よ、永久に栄光あれ！

芥川也寸志

Yasushi Akutagawa

イラスト＝芥川先生自筆

偉大なるアマチュア・芥川先生

新交響楽団の音楽監督・芥川也寸志は、去る１月31日夕刻、63歳で永眠いたしました。その早すぎる死は新響のみならず、日本の音楽界にとっても誠に痛恨のきわみです。

芥川先生は、新響30余年の歴史の中で、創立以来音楽監督として常に新響を指導し続けて下さいました。これは偉大なことであり、新響の誇りとするところでした。団の創設、東京労音からの独立、10周年のベートーヴェン・チクルス、ソ連への演奏旅行、ストラヴィンスキー三部作、20周年の日本の交響作品展、サントリー音楽賞受賞、30周年の芥川作品展、中国作品展など、節目ごとの活動は新響ばかりでなく、広く日本の音楽界に大きな刺激を与え続けてきました。まさに芥川先生の思想と指導がなければこうした発展はあり得なかったと思います。

芥川先生は団の創立以来、新響に対しゆるぎない信念を持ち続けておられました。

「音楽はみんなのもの―アマチュアこそ音楽の本道である」「ひたむきに演奏することこそが感動を呼びおこす」

この言葉をふまえ、常に驚くばかりの真剣さで新響を叱咤激励なさいました。

特に晩年は日本音楽著作権協会の理事長、日本作曲家協議会会長などの数々の要職にあり、多忙にもかかわらず、新響のために人間・芥川也寸志として接して下さいました。団員と将来の抱負を語り合い、共に悩み、時には喧嘩し、怒鳴られ、また励まされ、喜び合い、そして何よりも同じ音楽を愛する者、言いかえれば同じ「アマチュア」として、先生は新響にご自分の人生を賭け、また燃焼させてこられました。芥川先生とのこのようなおつき合いを通して音楽の楽しさを共有できたことは、新響にとって永遠にかけがえのないものとなっております。

先生の訃報に接した１月31日の夜、成城のご自宅に新響の団員がお伺いした時、先生が亡くなられるまで新響のことを心配されていたこと、再び新響とステージを共にしたかったことを奥様よりうかがい、団員の悲しみは一層深まりました。

しかし、この悲しみをのりこえて、今までの新響に対する先生の限りない愛情をさらに新たな活動のバネとして、新響はより創造的な、より社会的存在意義を持ったオーケストラとして前進していきたいと考えております。

本日の演奏会の最後に、追悼の意を込めて、芥川先生の作品を演奏いたしますが、先生亡き後もより明るく、楽しく、そして一生懸命に演奏を続けていきます。そのことが何よりの芥川先生へのご恩返しとなり、先生のご遺志にも沿うものと確信します。

これからも新響を応援して下さいますようお願い申し上げます。　本日のご来聴、ありがとうございました。

新交響楽団理事長・土田恭四郎

新交響楽団第123回演奏会
（アマチュアオーケストラ）

ストラヴィンスキー：舞踊音楽「ペトルーシュカ」1911年版

Igor Stravinsky：Petrushka 1911

第１場・謝肉祭の日
第２場・ペトルーシュカの部屋
第３場・ムーア人の部屋
第４場・謝肉祭の日（日暮れ時）

休　憩

チャイコフスキー：交響曲第６番ロ短調「悲愴」

Peter I. Tschaikowsky：Symphonie Nr.6　h-moll »Pathetique« 1893

第１楽章・Adagio–Allegro non troppo
第２楽章・Allegro con grazia
第３楽章・Allegro molto vivace
第４楽章・Adagio lamentoso

追悼演奏

芥川也寸志：交響管絃楽のための音楽より第２楽章　1950

Yasushi Akutagawa：Musica per Orchestra Sinfonica

1989年４月１日（土）７：00 p.m.
東京文化会館
主催：新交響楽団

指揮者

本名　徹二



1957　郡山市生れ。
1973　東京芸術大学音楽学部附属音楽高等学校入学。トロンボーンを伊藤清、Prof. クルト・プチケ両氏に師事。
1976　東京芸術大学音楽学部器楽科入学。同年秋より北西ドイツ音楽学院(デットモルト)入学。トロンボーンをProf. ヴィリー・ヴァルターに師事。
1977　秋より芸大復学。トロンボーンを続けながら指揮をProf. C.A. ビュンテに師事。
1980　井上道義氏に師事。現在に至る。
1981　芸大中退。
1982　１年間山田一雄氏に師事。
1985　第20回民音コンクール指揮部門において１位なしの第２位受賞。同時にアサヒビール賞ルフトハンザ賞受賞。
1986　受賞記念コンサートとして札響、名古屋フィル、新星日響、大阪フィル、九州響を指揮する。また、７月には西ドイツ・ゾーリンゲン市立劇場管弦楽団より招かれ、ライニッシェポスト、ゾーリンゲンターゲブラッド両紙で絶賛される。現在、宮城フィル、日本フィル、東京都響、群響、神奈川フィル、ニューフィル千葉等、数多くのオーケストラを指揮している。
1989　４月よりアムステルダム・コンセルトヘボウ管弦楽団研修生として渡欧予定。

ストラヴィンスキー：舞踊音楽「ペトルーシュカ」1911年版

作曲年代：1910. 8～1911. 5. 26
初　　演：1911. 6. 13　パリ・シャトレ座　ピェール・モントゥー指揮
楽器編成：フルート4(2ピッコロ持替)、オーボエ4(1イングリッシュホルン持替)、クラリネット4(1バスクラリネット持替)、ファゴット4(1コントラファゴット持替)、ホルン4、トランペット2、コルネット2、トロンボーン3、テューバ1、ティンパニ、大太鼓、シンバル、小太鼓、トライアングル、タンブリン、タムタム、木琴、グロッケンシュピール、チェレスタ、ハープ2、ピアノ、弦5部
演奏時間：約42分
使用楽譜：KALMUS

今は昔、謝肉祭で賑わうロシアはペテルブルグでのお話でございます。見世物小屋や屋台店が立ち並ぶ広場には人々が溢れ、あちこちから聞こえる手廻しオルガンやオルゴールにあわせて踊り子たちが踊るやら、よっぱらいがねり歩くやら、とにかくごった返しております。突然の太鼓の音が人形芝居の開幕を知らせます。何やら怪し気な老香具師(やし)が笛を吹いて芝居小屋の幕が開くと、中の３人の人形がまるで生きているように踊りだしたので見物衆はびっくり仰天。それもそのはず、実はこの親方魔法使いで、人形たちは人間並みの心すら吹き込まれていたのです。人形たち、すなわちペトルーシュカ、踊り子、ムーア人は〝ロシアの踊り〟をくりひろげます。

ところ変ってここはペトルーシュカの部屋、何とも暗く陰気で、壁にはあの親方の肖像画がニラミをきかせております。ここに放り込まれたペトルーシュカ、自分の不様(ぶざま)な姿、残忍な親方に奴隷の様にこき使われる毎日、こんな生活もうイヤッ、ヤケッパチでございます。たったひとつの望みであるあの踊り子さんを思い悶々としているところへ、かの憧れの君が入ってきたからモウ有頂天。何とか気を引こうと躍気になりますが彼女は鼻にもかけずにプイと出て行ってしまい、ペトルーシュカは一気に絶望のどん底へつき落とされるのでした。

次の場面はうって変って豪華なムーア人の部屋でございます。贅沢な部屋着姿のムーア人は寝椅子(カウチ)にくつろぎ、ポテトならぬ椰子の実を玩んでおります。そこへ入ってきた例の踊り子、どうやら彼女、頭はカラッポでも金持ちでたくましいムーア人に気のある様子。流し目を送りながらダンスを始めます。始めは無視していたムーア人も――いずれもよくあるパターンですな――いっしょに踊り始め、２人のワルツはしだいに高まってゆきます。何か物音が？と聞き耳をたてた２人の前に飛び込んできたのは嫉妬に狂ったペトルーシュカ、ムーア人に摑みかかりますが所詮かなう相手ではありません、放り出され

てあえなく幕(チョン)。

再び場面は夕方近くの元の広場に戻ります。子守女たち、熊をつれて牧笛を吹く農夫、ジプシー女をつれた金持商人、馭者と馬丁、仮装をした一団、入れかわりたちかわり踊りながら登場。なおいっそう賑わいを増しております。突然の叫び声に踊りは中断、芝居小屋から飛び出してきたのはペトルーシュカ、それを追うムーア人、必死で引きとめる踊り子!!あっと言う間にムーア人の剣はペトルーシュカを打ち倒し、頭がこわれてしまいます。とり囲む群衆に香具師は〝なあに、ただの人形でさあ〟とペトルーシュカをゆすぶって見せます。群衆は去り、ひとり屍体を曳いて帰る香具師が目にしたのは、小屋の上に現われたペトルーシュカの亡霊ではありませんか。香具師は人形を放りだして一目散に逃げ去るのでした。

—幕—

かの「天才を発掘する天才」ディアギレフの依頼によりロシアバレエ団のために書かれた「火の鳥」の大成功によって、当時28歳のストラヴィンスキーは文化の最先端パリにおいて一躍時代の寵児となった。引続き彼は、かねて構想のあった異教徒の儀式に基づく管弦楽曲（後の春の祭典）の作曲を考えたが、“事の重大さにこの間、ピアノが重要な役割を持つ協奏曲的な管弦楽曲を作曲しリフレッシュを計ろうとした。”（自伝より）突然生命を与えられた人形の悲劇による台本は、故郷の人形芝居で見た「ペトルーシュカ」という題名がつけられた。これを知ったディアギレフは、すぐさまバレエ曲として完成させる事を求めた。舞台装置、衣裳にはブノワが当り、両者の緊密な連携により、この４幕のブルレスク（道化芝居）は1911年５月完成した。初演は同年６月13日、フォーキンの振付、モントゥーの指揮でパリ・シャトレ座、ディアギレフはロシアバレエ団にとってデビュー３年目を正念場と考えていたが、結果は大成功、バレエ団及びストラヴィンスキーの名声が確立した。

曲はロマン的傾向を残す「火の鳥」から大きく変り、ロシア民謡やら、ランナーのワルツなどを取り入れながら、変拍子や複調を効果的に用いた大変斬新なもので、この曲自体傑作であることは言うに及ばず、次の「春の祭典」への大きな足掛りとして、20世紀の音楽の確立に果した役割は大きい。すなわち、異教徒の儀式による作品の完成とは、ロシア人ストラヴィンスキーにとって世界の檜舞台での自己の確立に置きかえることができ、「火の鳥」完成直後のためらいはそれ故のものであり、又この「ペトルーシュカ」は音楽そのものをリフレッシュするための重要な作品と位置づけることができる。



ペトルーシュカ役のニジンスキー

なお、この曲には４管編成を３管に縮小し、細かい改変を加えた1947年改訂版があるが、音楽的密度は1911年原典版がより高い。

（Per. 上原　誠）

チヤイコフスキイそして我が心象の露西亞

チャイコフスキー：交響曲第６番「悲愴」

作曲年代：1893年
初　　演：1893.10.16　作曲者の指揮により、ペテルブルク（現レニングラード）にて。
楽器編成：フルート3（1ピッコロ持替）、オーボエ2、クラリネット2（慣例としてバスクラリネット1）、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、テューバ1、ティンパニ、大太鼓、シンバル、タムタム、弦5部
演奏時間：約43分

彼の音樂に對する時、僕はその背後にかの國の自然の情景を想起して了ふ。我が心象に於いてのみ在り續ける、北國の風景が惚然と現はれるのである。僕にとつては、非常に重要な事だ。

誠に唐突な様だが、ここで獨歩の『武藏野』の事に触れたい。

獨歩に此の一書を編ませる契機となつたのは、ツルゲネフの短編『あひゞき』だつた。彼は二葉亭の譯でこれを讀み、ロシヤの自然——秋から初冬にかけての樺の林や田園の風景——の美を知つたのだ。此の作品によつて落葉樹林の美に開眼した事を、彼は告白してゐる。そして、その美を武藏野の風土の中に見出すに到るのである。

僕は『武藏野』に長々と引用されたツルゲネフの文章を知ると、早速『あひゞき』を購ひ、次いで『猟人日記』を讀んだ。これらの作品中の世界の情景は、その底流に於いてチヤイコフスキイの音樂と、僕の裡では完全に合致し得た。考へて見れば十五年以上も前の事だが、冒頭の心象作用は、今もつて變つてゐない。

或る人は、これを嘲笑するかも知れぬ。ロシヤは廣大な上にも廣大である。ツルゲネフの世界はそのほんの一畵を（それでも日本よりは何倍も廣からうが）謂はゞ箱庭の如く切り取つた丈ではないかと。

そのことは、僕も充分承知してゐる。

しかし、美と云ふ快樂の個人的な享受の次元に、認識論を持ち込んで何にならう。現に僕は、すでにロシヤに就いてやゝ深く知つた事に、後悔を覺へる程である。一例を擧げる。

チヤイコフスキイの第四交響曲の終樂章にある『樺の木』には、元來次の様な歌詞がついてゐると云ふ。

〝樺の木の枝を切つて
籠やバラライカをつくり
それを持つて老人の寢てゐる處へ
行つては、惡口を歌ひ
戀人のねてゐる處では
やさしい歌を歌はう……〟**

この曲にかうした詞がある事を知つた時は意外の念を禁じ得なかつた。大方の日本人はもつと感傷的な氣分で、この曲名と旋律をとらへてゐるのではないか知らん。これを「美しき誤解」だと言つても良い。但し想像の餘地の多少で決まる美もこの世には有るものだ。

その點、獨歩はより賢明だつた。彼は眞に武藏野が名殘りをとゞめる地を、終生訪れる事なく、澁谷村の寓居にあつて周圍を散策しつゝ、武藏野を、そしてロシヤの自然を想ひ續けたのである。

彼に於けるツルゲネフが、僕にとつてのチヤイコフスキイだとは言ひ難い現實が、むしろ哀しい。讀書と思索と逍遙によつて培かはれた耽美的世界は、現代では存續し得ぬ状況にあるのだ。

我が心象のロシヤは、彼の音樂と、何時まで共存し續けられるのだらうか。

** 井上賴豐著「ロシヤの民謠」所収　　（Fl. 松下　俊行）

芥川也寸志：交響管絃楽のための音楽より第2楽章

作曲年代：1950年
初　　演：1950. 3. 21　近衛秀麿指揮・日本交響楽団。日比谷公会堂にて
楽器編成：ピッコロ、フルート2、オーボエ2、コールアングレ、クラリネット2、バス・クラリネット、ファゴット2、コントラファゴット、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、テューバ、ティンパニ、大太鼓、シンバル、小太鼓、弦5部

芥川也寸志が幼時から、レコードを通じてストラヴィンスキーの≪ペトルーシュカ≫や≪火の鳥≫に親しんでいたということは、彼の芸術を語る上に、有力な糸口となる。

いったい日本の作曲家には、作風が目まぐるしく変わる人が多いが、芥川の作風は多少の変化はあっても、初めから一貫したものがあり、それが彼の大きな特色となっている。

それはどういうものかというと、音楽を作るにあたって、あいまいな感じのものをいっさい拒否するという態度である。このことは必然的に、ロマン的な、夢幻性、耽美性をさけることとなる。つまり、彼にとっては、複雑な対位法の網目によって生れる幽玄な趣きや、印象主義的な色彩の混合によってかもし出される、そこはかとない微妙な響きは異質なものなのである。したがって、現代音楽の一方を代表する12音の技法も、たとえそれが非情の色を帯びていようとも、それが持つ宿命的な、一種のロマン性のゆえに拒否している。

彼の作品の底に流れるものは、微細な塵の混入すら許さぬ精密機械の冷たさと、直截な原始性のもつ非情さであり、また、時として、原始の肉感にあこがれる都会人の透明な感傷である。

こういった彼の作風の形成にとって先にのべたストラヴィンスキーの影響から始まって、プロコフィエフの影響は大きかった。しかし、何よりも彼に大きな影響をおよぼしたのは、彼が傾倒してやまなかった恩師伊福部昭の影響である。この、土俗ふうと、モダニズムとの合体の上に独自な音楽を作り上げた北海道出身の作曲家に、芥川は、自分の血の中に流れているリズムと同じ脈動のうっているのを発見したからにちがいない。

芥川は、伊福部昭の影響から離れて、その後新たな作風をしだいに形成してゆくのであるが、この≪交響管絃楽のための音楽≫は、芥川の出世作であると同時に、伊福部昭から得たものがどれほど芥川自身の血肉となっているかをもっともきたんなく示した作品ということができるであろう。

この作品は、1950年、ＮＨＫ放送25周年記念管弦楽懸賞に、團伊玖磨の≪イ調の交響曲≫とともに特賞入選したもので、その後、近衛秀麿、尾高尚忠、クルト・ウェスらの指揮者、ならびに作曲者自身の手によってしばしば演奏され、おそらく、日本人の作った管弦楽曲の中では最も演奏回数の多いもののひとつではなかろうか。海外でも、ハンブルク、パリ等でも演奏された。完成の日付は、自筆スコアによると1950年２月20日となっている。

（井上太郎・最新名曲解説全集・音楽之友社より）

FONTEC RECORDS

芥川也寸志の世界

Produced by FONTEC INC. & THE NEW SYMPHONY ORCHESTRA



緊急発売
全5枚
4月10日5タイトル同時発売

写真　木之下晃　＊印　芥川也寸志のことば



去る一月三十一日急逝した芥川也寸志を追悼しここに絃半生を共に生きた新交響楽団とのしごとを集成します。

作曲家として指揮者として類まれな音楽的情熱の証を『素晴らしきもの』＊アマチュア新響との喜びのうたに示した芥川也寸志。

自作自演の作品から早坂・伊福部をはじめ日本の交響作品への愛着から生まれた名演を集め今回特にショスタコーヴィッチ作品と中国の佳作を加え全五タイトルCD一挙同時発売となります。

芥川也寸志の世界

第一集　芥川也寸志／管弦楽選集（続）
交響三章（一九四八）
＊コンチェルト・オスティナート（一九六九）
アレグロ・オスティナート（一九八六）
武蔵坊弁慶（一九八六）
芥川也寸志指揮　新交響楽団
＊山岡重信指揮　安田謙一郎－チェロ
FOCD3243

第二集　早坂文雄／管弦楽選集
古代の舞曲（一九三七）
左方の舞と右方の舞（一九四一）
映画「羅生門」より五曲（一九五〇）
管弦楽のための変容（一九五三）
芥川也寸志指揮　新交響楽団
FOCD3244

第三集　伊福部　昭／管弦楽選集
交響譚詩（一九四三）
タプカーラ交響曲（一九五五／七九）
ヴァイオリン協奏曲第2番（一九七八）
芥川也寸志指揮　新交響楽団
小林武史－ヴァイオリン
FOCD3245

第四集　日本の交響作品展
小倉朗／オーケストラのための舞踊組曲（一九五三）
平尾貴四男／古代讃歌（一九三五）　菅原明朗／アコーディオンのための協奏交響楽（一九七九）
松平頼則／南部子守唄を主題とするピアノとオルケストルの為の変奏曲（一九三九）　片岡良和／抜頭によるコンポジション（一九六一）
芥川也寸志指揮　新交響楽団
御喜美江－アコーディオン　土屋律子－ピアノ
FOCD3246

第五集　ソヴィエト・中国交響作品展
ショスタコーヴィッチ／交響曲第四番　ハ短調 Op.43
李煥之／春節序曲　大秧歌
呉祖強／二泉映月
芥川也寸志指揮　新交響楽団
FOCD3247

以上各　税込定価三、〇〇〇円（税抜価格二、九一三円）

四月十日5タイトル同時発売です。
（三月十日より予約受注開始となります）

予約特典
本シリーズ二枚以上予約いただいた方に、先着で、「芥川也寸志　自作と新響を語る＋リハーサル風景」カセットテープをさしあげます。

予約受付中
全国レコード店にて、現在予約受付中です。

好評発売中　芥川也寸志ディスコグラフィー



芥川也寸志／管弦楽選集
（第25回レコードアカデミー賞受賞）
交響管絃楽のための音楽（1950）絃楽のための三楽章（1953）
交響曲第一番（1955）エローラ交響曲（1957/8）
芥川也寸志指揮　新交響楽団
CD　FOCD3208 税込定価¥3,008（税抜価格¥2,920）

清瀬保二／管弦楽選集
日本祭礼舞曲／エレジー／原始的舞踊／ピアノ協奏曲／古代に寄す
芥川也寸志指揮　新交響楽団　林光－ピアノ
LP　FONC5039 税込定価¥2,348（税抜価格¥2,280）

小山清茂／管弦楽選集
管弦楽のための「信濃囃子」／管弦楽のための「うぶすな」
弦楽のための「アイヌの唄」
テープを伴った管弦楽のための「鄙歌」第1番
芥川也寸志指揮　新交響楽団　渡辺達－ピアノ
LP　FONC5062 税込定価¥2,348（（税抜価格¥2,280）

株式会社
フォンテック
〒162 東京都杉並区
荻窪 5-22-5
Phone 03-393-0183
Fax. 03-393-3481

情報は友だち

RICOH

世界初の4倍パワーズーム内蔵オールインワンカメラ▶MIRAI◀



これ一台ですべてのオールインワンカメラ。MIRAIは、世界初の35-135㎜、望遠比4倍に迫る高性能パワーズーム内蔵カメラ。操作もカンタン。使いやすいズームダイヤルひとつで、広角から望遠まで自由に画面サイズが選べます。最短49㎝までの本格的なマクロ機能も搭載。また、専用のテレコンバーターをつければ、なんと200㎜というスーパー望遠に早がわり。MIRAIは、この4倍パワーズームをはじめ、TTLオートフォーカス、ポップアップ式ストロボ、そのほか多種多彩なメカニズムを搭載。高級一眼レフのクオリティを、コンパクトカメラの手軽さで実現した、まったく新しいカメラです。



AUTO FOCUS
35-135mm
POWERZOOM

●35-135ミリ、望遠比4倍に迫る高性能パワーズーム内蔵●AF補助光を内蔵したひとクラス上のTTLオートフォーカス●秒2コマのオートワインダー●フルオートドライビングシステム●まったく新しいホールディングのあり方を提示する、角度可変式ハンドグリップ●撮影意図とシチュエーションに応じて自由にシフトできるプログラムAE●DXオート●リコー独自のスプロケットレス光学式枚数読み取りメカ●2種類の中から選べる、充実の測光システム●最新の人間工学が生んだ、先進のエルゴデザインフォルム●日中シンクロもできる縦型ポップアップ式大光量ストロボ内蔵●撮影前に露出の適・不適を知らせるストロボ調光システム●レーザービームマット採用によりさらに明るく見やすくなったファインダー●撮影情報満載の大型LCDパネル●ディテールに迫れる、マクロ機能つき●テレコンバーターをつければ、200㎜の本格望遠に●専用ストロボがつけられるストロボコネクター●データバック対応●マニュアルフォーカスもOK●AEロックボタン●±4EVの露出補正ボタン●連写モード●バルブモード●セルフタイマーモード●自動日中シンクロプログラムモード●スローシンクロOK●パワフルなリチウム電源●乾電池対応●15秒節電タイマー●重さ/1010g●サイズ/134.5×80.5×125.5㎜

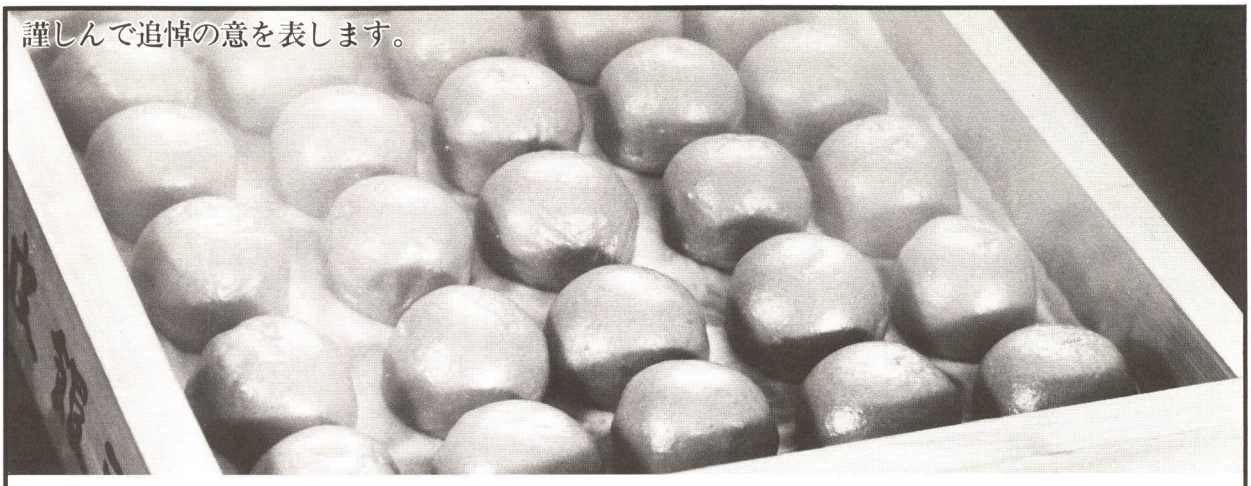
世界初、4倍パワーズーム内蔵オールインワンカメラ▶ミライ◀

MIRAI

RICOH MIRAI本体……73,000円(税別)
MIRAI date本体……77,500円(税別)

株式会社リコー 光学事業部 〒104 東京都中央区銀座6-14-6 03(543)5111

謹しんで追悼の意を表します。



みちのくの素朴な味わい。

柏屋の薄皮饅頭

創業嘉永五年
薄皮饅頭
柏屋®
全国銘菓協会会員

本社／福島県郡山市富久山町久保田字宮田127-5☎0249-24-5511㈹　フリーダイヤル☎0120-01-4339



芥川先生の御冥福を お祈り申し上げます

夢をお創り Gabrie Honma café Emigrette いたします。

Head Office●B1,3-37-3 Minamiotsuka, Toshima-ku, Tokyo
〒170 Phone 03-985-1822
Koriyama Branch●504 Shokokaikan, 1-3-8 Shimizudai, Koriyama-shi, Fukushima
〒963 Phone 0249-32-8728


50th
ANNIVERSARY
JASRAC 1989
音楽、すくすく。
著作権が育てる、
かけがえのない音楽
植物がすこやかに育つには、水や光が必要なように、音楽がすこやかに育つには、著作権がしっかりと守られることが大切です。
JASRACはやがて創立50年——ひたすら著作権を守り、音楽を育てていきます。
JASRAC
日本音楽著作権協会
〒105 東京都港区西新橋1-7-13 ☎(03)502-6551